

伊豆 倉 ゆう た いずくら雄太県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

「第二の開港」に期待

2月県議会予算委員会で総括質疑に立った伊豆倉雄太県議(市原市選出、3期)は、成田空港第三滑走路新設の経済効果や、医療空白地域を生じさせない医療体制、新規就農者の定着などについて、熊谷知事ら県執行部に質問しました。

成田空港の第三滑走路新設は「第二の開港」と期待され、日本経済の国際競争力強化にもつながらず、伊豆倉県議は、東京に依存しない経済圏の確立を熊谷知事に問きました。伊豆倉県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

成田空港を核に 持続的な発展を

2月県議会予算委員会



県の施策について質問する伊豆倉雄太県議

伊豆倉委員 成田空港の第三滑走路(C滑走路)新設による経済効果は、地域の発展、インフラ整備の促進などを指し、周辺地域への大きな波及効果が期待されている。これにより、「第二の開港」とも言われ、日本経済の国際競争力強化にも貢献すると見込まれており、おおいに期待するところだ。

伊豆倉委員 成田空港の東京に依存しない経済圏の確立とは、どのようなものか。

知事 首都圏に位置している本県は、東京に近接するエリアに加えて、海や里山など豊かな自然環境もあり、まさに「日本の縮図」であると考えています。

また、成田空港を通じて世界と接していることから、都市部と地方部と世界、という3つの視点を持つことが、本県の魅力であり、これらを磨き上げていくことが重要であります。

圏央道沿線の市町村 企業誘致へ産業用地整備

現在、「成田空港第2の開港プロジェクト」や圏央道などの広域交通網の整備が進められており、本県の拠点としての優位性が更に高まることから、今後もこうした強みを最大限活用しながら、企業誘致の促進や成長産業への支援、稼げ

る農林水産業の実現などに取り組み、東京に隣接する地域のみならず、県内各地に雇用の場を生み出すことで、県全体の持続的な発展につなげ、一人ひとりが豊かなライフスタイルを実現できる新しい千葉の未来を作ってまいりたいと考えています。

伊豆倉委員 企業誘致についてうかがう。圏央道沿線地域は多くの可能性があると思うが、県はどのように考え、具体的な対応を行っているのか。

商工労働部長 県では、圏央道の全面開通により、広域的な拠点性が高まり、

伊豆倉委員 道路ネットワークは経済圏を支える重要な基盤。圏央道のアクセス道路の整備について、どのように取り組んでいくのか。

県土整備部長 圏央道にアクセスする銚子連絡道路では、本年1月から用地取

産業集積の促進や持続可能な発展が可能になるものと期待しています。このため、デベロッパーなどの関係先と連携しながら、企業の進出実現に向けた誘致活動を強化しているところです。

また、沿線地域の複数の市町村において、産業用地整備に向けた検討が進められていることから、県では、市町村の検討段階に応じて、補助金の活用や事業実施に必要な認可手続きに対しての伴走支援などを行っているところであり、引き続き、産業用地の整備が円滑に進むよう、積極的な支援を実施してまいります。

伊豆倉委員 企業誘致は過疎が進む郡部はもっと切実に渴望している。何もしなければ、ほとんど過疎は加速的に進み、何とか地域の生産年齢人口の方が流出しないかの希望の一つが企業誘致であると思う。千葉の均衡ある発展のため、郡部にももう少し目を向けていただけれることを強く要望する。

得に着手し、長生グリーンラインでは、橋梁工事や用地取得などを進めており、引き続き、業務支援や効率的なマネジメントを行う事業監理を導入し、円滑な事業推進に努めてまいります。

また、国道297号や国道356号、国道465号のバイパスは早期整備に取り組みでまいります。

●お近くにお越しの際はお気軽にお立ち寄りください

いずくら雄太
県議事務所
〒290-0081 市原市五井中央西2-11-5
TEL. 0436-37-1777
FAX. 0436-37-1331

安心安全な医療体制を 県立病院の役割の重要

伊豆倉委員 救急搬送時
間の短縮や、医療空白を生じ
させないためには、民間医療
機関の努力だけでなく、県と
しての関与が不可欠だと思っ
ている。

特に、県立病院は採算性
だけでは担えない医療や、
地域の基幹的な医療を支え
る役割を担っている。
救急医療を含め、医療空

白が生じうる地域に対して、
県立病院を含め、県はどの
ような役割を果たすべきと
考えているのか。

知事 国は、「人口の少な
い地域における持続可能な
医療提供体制の確保に向け
て、周囲の区域の人口や医
療資源等も踏まえて、隣接
する区域との合併等も含め

た検討が必要」としている
ところだ。

また、特に救急医療体制
を確保する上で、例えば、
複数の小規模な病院がある
状態と、一つの病院に医療機
能を集約している状態とで
は、地域で提供できる医療
機能は必ずしも同等ではな
く、医療機関の連携・再編・

集約化が重要、といった考
え方が示されています。
伊豆倉委員 郡部
で、特に搬送時間が

非常に長い地域に住まれて
いる方は、心臓や脳など一
分一秒を争うような病気の
時に本当に大丈夫なのか、
という心配を抱えて生活を
している。県においては、
安心安全な医療体制の提供
に向けてよろしく願いまし
たい。

伊豆倉委員 医療空白の
問題を、救急医療を含めた
医療提供体制全体の課題と
して、どのように捉えてい
るのか。

伊豆倉委員 「千葉の自
然を活用した観光地域づ
くり促進事業」に6億67
00万円の予算が計上さ
れ、今回、養老溪谷温泉郷
に加え、新たに内房及び外
房エリアでも取組が始まる
こととなったが、各地域でど
のように事業を進めていく

か。
商工労働部長 養老溪谷
温泉郷については、地元市町
や観光・宿泊事業者等が参
画した協議会を設置し、多
様な主体で議論を深めなが
ら事業を進めているところ
です。

魅力ある県立病院へ 医師の偏在、格差是正

伊豆倉委員 医師の偏在
の格差を是正する為にも、
県立病院の改修や医師の環
境の改善はどのように行う
のか。

病院局長 県立病院にお
いては、診療に支障が生じ
ないよう、施設の状態の把
握に努めており、職員の勤
務環境などにも配慮しなが
ら、計画的に整備を実施し
ております。

また、医師にとって魅力
ある病院となるよう、病院
の特徴を活かした研修プロ

グラムの充実を図っているほ
か、海外で開催される学会
等への参加に対する助成を
行っているところであり、引
き続き、医師の知識や技術
の習得に資する環境づくり
に取り組んでまいります。

は、救急搬送時間の短縮に
向けた取組として、医療機
関における救急患者の受入
可否等を救急隊と情報共有
する「ちび救急医療ネット」
を全県で運用しています。

今年度は、救急隊から医
療機関へ、負傷部位や交通
事故状況等を写真で共有で
きる機能を追加したところ
であり、引き続き、関係者
の意見を踏まえた改善に努
め、救急搬送時間の短縮に
加え早期に治療開始でき
るよう取り組んでまいります。

**救急搬送時間の
短縮へ医療ネット**

伊豆倉委員 救急搬送時
間の短縮はどのような事業
を行っているか。
保健医療担当部長 県で



県担当者の答弁を聞く伊豆倉県議

新規就農者定着へ 農協などで相談体制

伊豆倉委員 新規就農者
の定着に関し、どのような
課題を感じているのか。

農林水産部長 新規就
農者からは、「収量が安定し
ない」「販売が思うように
いかない」「相談相手がいな

い」などの声があることから、
そういった相談に丁寧に対
応できるよう、地域での支
援体制を充実させていくこ
とが必要であると考えてい
ます。

伊豆倉委員 新規就農者
の研修先のマッチングや、就

業事務所において、新規就
農者が栽培技術や経営管理
などの農業経営の基礎を3
年間で学ぶセミナーを実施
しています。

また、新規就農希望者の
研修先のマッチングや、就

の定着に向けて、
県ではどのよう
に取り組んでい
くのか。
農林水産部長
県では、各農

業事務所において、新規就
農者が栽培技術や経営管理
などの農業経営の基礎を3
年間で学ぶセミナーを実施
しています。

また、新規就農希望者の
研修先のマッチングや、就

ICT活用して 有害鳥獣捕獲

伊豆倉委員 有害鳥獣の
捕獲においてICTを活用
した機器はどのくらい導入
されているのか。

農林水産部長 県では、
イノシシ等が畏れかかると
メール等で捕獲者に知らせ
る捕獲通知機器などの導入
について、国の鳥獣被害防
止総合対策交付金を活用し
て支援しているところです。

令和4年度から令和6年
度までの3年間で316基
の導入に対して補助してお
り、令和7年度は118基
が導入される計画となっ
ています。

伊豆倉委員 今後
は、養老溪谷を核に、
周辺地域への波及効果も考
えていると伺っている。今
後、周辺地域への波及効果
を大いに期待している。

観光地の魅力アップへ 協議会でプラン作り

伊豆倉委員 「千葉の自
然を活用した観光地域づ
くり促進事業」に6億67
00万円の予算が計上さ
れ、今回、養老溪谷温泉郷
に加え、新たに内房及び外
房エリアでも取組が始まる
こととなったが、各地域でど
のように事業を進めていく

か。
商工労働部長 養老溪谷
温泉郷については、地元市町
や観光・宿泊事業者等が参
画した協議会を設置し、多
様な主体で議論を深めなが
ら事業を進めているところ
です。

引き続き、地域のブランデ
イングに向けた調査や新たな
コンテンツ造成に向けた実
証、地域の魅力向上につな
がる施設等の整備などに取り
組んでいきたいと考えていま
す。

また、内房及び外房地域に
ついては、養老溪谷温泉郷と
同様に、協議会を設置して多
様な主体と議論しながら事
業を進める予定であり、両地
域は海の活用が大きなテーマ
となることから、漁業関係者
にも協議会に参画していただ
きたいと考えています。

さらに、内房及び外房地
域は、養老溪谷よりエリア
が広域であり、既に地元市
町や事業者が様々な取組に
挑戦していることから、協議
会の運営や事業の進め方に
ついては、地域の関係者と意
見交換を行いながら、検討
してまいります。